

# 磐城時報

日二廿夕  
編輯兼發行人 岡田弘成  
印刷所 加納活版所  
福島縣石城郡平町新築町  
電話 二四八  
廣告部 電話 二四八  
電話 二四八  
電話 二四八

## 公正なる取締りに 駐在巡查の大異動 平署の總選舉對策

縣警察部では来るべき總選舉に  
公正公平なる取締を行ふため同  
一地に於ける永年在勤巡查の更  
迭を廿一日付で發表したが平署  
關係分は左の如く  
小名濱古港 三春 鈴木敏次  
小名濱派出 高久 鈴木長吉  
江名 磐崎 金田 寛  
湯本上町 古港 兒島鶴吉  
赤井 澤渡 綠川利雄  
小名濱定西 請願 渡邊孝司  
神谷 梁川 猪狩芳松

## 東京支部からも陳情

### 平商校々舎新築問題 商友會の運動益々猛烈

既報一平商業學校々舎新築實現  
運動の烽火は平商友會の手によ  
つて揚げられ、平町會に於ても  
促進委員を擧げてその實現に努  
めることになつたが、さらに平  
商友會東京支部でも本部で連携  
して極力その實現を期すべく支  
部長高田平四郎氏、幹事長鈴木  
壽雄氏、幹事小野瀬信之助外幹  
部十五名連署で左記陳情書を書  
留郵便で青沼町長の許に送付し  
て来た。  
母校平商業學校は創立以來廿  
二年にして其卒業生は既に一  
千名に垂々とし平町並に其近

の被るべき被害は言語に絶す  
べく、過般の京阪地方に於る  
災害の例に見るも誠に寒心に  
堪へざるなり、依て教職員並  
に生徒ともに之が危惧の念を  
抱き安んじて學業に精進する  
を得ざるに於ては教育の不  
底を來し健全なる國民精神涵  
養の要素を缺き國家將來のた  
め誠に憂慮に堪へざるものあ  
るべし、現時都市美化の聲  
間に喧しきは唯に對外的並に  
災害豫防の舉に出でたるのみ

## 新口十六圓騙取

東京市浦田區糠谷町仲  
江堀内金五郎こと鈴木  
万太郎(三〇)は昨年十  
一月下旬内郷村敷地内を徘徊中  
同人は窃盜罪で執行猶豫中であ  
つたので舊惡の發覺を恐れ頑強  
に深淵を守り鎌田遊廓住吉傳娼  
妓某に宛てた遺書まで血書して  
狂言自殺を圖つた程で(當時所  
在署を手古圖らせてゐたが  
昨年十一月十六日東京市浦田  
町金融業月村辰之助(四八)に  
なり済まし公衆電話を利用し  
て月村の妻へ電話を以て  
「堀内といふ者が行くがこれ  
は信用の置ける奴で借用書も

## 電話を利用して 金貸しの妻を欺く 狂言自殺者の犯罪判る

ならず完全なる建築物は又健  
全なる國民精神の涵養に必要  
にして充分なる要件なりとな  
すの點にありと信ず、既知の  
如く現校舎は長く縣立磐城中  
學校之を使用し來り縣當局に  
於ても廢校舎として移轉を余  
儀なくされたるものにして、  
新築の必要は多言を要せざる  
なり。先般本部より通達に依  
れば昨年十二月三日の町會に  
於ては吾等の衷情を諒せられ  
新築の建議案の提出を見たら  
るや満場一致新築調査委員會  
設置を見たるは町當局並に町  
民各位の深甚なる同情の賜も  
のにして吾等衷心より感激に  
堪へざる所なり。  
希くば速に之が實現せらるる  
様御盡力賜はり度茲に商友會  
支部役員一同連署し右譯りて  
陳情致し候

## 地方米價漸く下押し

但し糯米は十四圓の高値

廿一日行つた石城販聯の俵米共  
主に面會を求め「この車はどの  
くらひに賣れませう」と乗つて  
入札値下押しのため大半不調に  
入り値下押ししたものは五百六十九  
圓、最高十一圓三十五錢、最低  
八圓、千二百圓程度で手放し  
たいと思ふのだが」といふ朝鮮  
人の話に迂散臭いと睨んだ同店  
では早速機嫌を利かして「自動  
車窃盗犯らしい」と立去るや直  
ちに平署に報告したので同署で  
右自動車番號により警視廳に照  
會したところ、この照會番號  
が誤つて傳へられ警視廳では  
いままの番號の自動車は東京市  
内を運轉してゐる」と回答を與  
へたので、前に前記四人の朝鮮  
人は被疑者と決定されたわけ  
である。

## 後藤驛長仙 鐵管内視察

後藤驛長仙  
は廿五日よ  
り一週間の豫定で仙鐵管内東北  
六縣の主要各驛の一般業務狀況  
ならびにガソリンカー運轉成績  
を視察する。

## サロソ

美味で  
評判の  
サロソ  
電三五二

## 舊歲末に神経とがる 喜劇自動車窃盜團

誤報に踊らされた捜査陣  
朝鮮豪農の令息平町で御難

舊歲末に神経を尖がらせてゐる劇。  
平署が「誤られたる密告」によ  
つて「自動車窃盜團」捜査手配に時  
ころ平町二丁目目子自動車部  
極悪の一夜を全署員が密行警戒に  
三四年型フォード・セダン警  
「堀内といふ者が行くがこれ  
は信用の置ける奴で借用書も  
繰り展げられる捕物ナンセンス  
りつけた朝鮮人四名の一團が店

三〇〇〇町區九段一丁目明治  
大學生許正南(二四)外三名の  
運轉手で  
鄭の家は朝鮮に於て一年六千  
石の上げ米を取る大地主、許も  
二千石の地主の令息で性來理殖  
に富む鄭は大枚三千圓を投じて  
一昨年三四年型フォード新車を  
購入しこれを前記の運轉手に一  
日何圓の歩合で貸與乗合營業を  
行はしめてこの利潤を貯金して  
ゐたが今春三月學校を卒業と同  
時に某所に就職することになつ

## 右自動車番號により警視廳に照

たのでこの副業も繼續する必要  
がなくなり千二百圓程度で賣却  
せんものと友人の仲介で仙臺に  
赴き希望者と會見したが七百圓  
ならばこのことで不調に終り歸  
京の途次平町で偶々商談したこ  
ろがこの間違ひとなつたもの。  
▼第三幕——無實の罪を着せ  
られて旅程を變更された彼等は  
「自分の車を處分するのには何  
が悪いのです」と憤慨「東京に  
お出での際は立寄り下りい」  
と記者團に愛嬌をふりまいて意  
氣揚々歸つた。

## 舊二日市景品に就て

一、現金にて御買上の方に景品を差上げ  
ます  
一、現金にて商品券御買上の方にも同様  
景品を差上げます  
一、但し商品券にて品物御買上の場合景  
品は差上げません  
二日市の景品は右の通り實行下さる様希望いたします

## 平商工會

平町各商店御中  
平町御客様御中

### 平町吳服店組合

一年中の御禮として安賣の大競争  
良品大廉賣各店競ふて大景品の山

### 吉二日市初賣

午前一時開店

商品券 (當日は込み合入ります) 大景品の山  
御來店の土御用命を御待ちいたします

- 伊 關 吳服店 平二丁目
- 小 野 榮 吳服店 平四丁目
- 渡 邊 吳服店 平土橋
- 川 又 商 店 平白銀町
- 吉 田 屋 吳服店 平假治町
- 谷 屋 吳服店 平新川町
- 松 屋 吳服店 平橋小路
- 安 積 屋 吳服店 平假治町
- 北 川 吳服店 平町通り
- 三 井 吳服店 平三丁目
- 諸 橋 吳服店 平新川町
- 仙 臺 屋 吳服店 平一丁目

舊正月 二日・三日 景品付初賣出し

開店第一回の初市  
大奉仕 大景品付

### 春川洋品店

午前一時開店 平町一丁目角  
わ早い方百名様金壹圓に買上の方様へ  
大景品の外に美麗名入石鹸を差上ります

### 改築記念

舊正月 二日・三日 初賣出し  
三隣煉炭會社特約店  
塩鮭・木炭  
乾物類 市原商店  
平町一丁目  
電話二四四番

煉炭・木炭大廉賣 平町一丁目  
電話二四四番

### 改築記念

舊正月 二日・三日 景品付大賣出し  
御菓子司 金澤屋  
平町一丁目角  
電話二二七番

### 舊二日初賣出し

御買上高 二圓毎に福引券一枚呈上  
商品切手調進御利用下さい  
扇屋酒店  
平町一丁目  
電話一六五番

舊正月

二日・三日 景品付初賣出し  
流行下駄・草履・雨傘  
田口はき物店  
平町五丁目  
電話三七七番

### 吉田眼科醫院

平町紺屋町 (電話六八番)

吉田眼科醫院 田口はき物店 扇屋酒店 金澤屋 市原商店

舊正月 二日・三日 吉例初賣出し

御早いた方五人様へ  
大角力木戸無料券特に進呈  
茶舗 大角園  
平町極道小路

當日は皆様へもれなく景品を進呈します  
磐城名産 鰹節

北 海 屋 商 店  
平町二丁目  
電話三三六八番

### 流行下駄・草履

「小僧さん大用」  
南町 三井ハタセモノ店  
電話一八一番

父丸山慶治上京中の處突然重病  
藥石効なく去る一月二十日逝去致  
候間此段御通知申上候  
追て葬送の儀は舊正月を遠慮し來る二月九日午後  
一時自宅出棺當町九品寺に於て佛式により執行可  
致す候  
昭和十一年一月廿二日

- 丸山喜一郎
- 丸山昇平
- 丸山健一郎
- 佐々木健一郎
- 丸山徳次郎
- 丸山徳次郎
- 丸山徳次郎